

岩手県文化財調査報告書第57集

# 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

— VIII —

(大瀬川A～C遺跡)

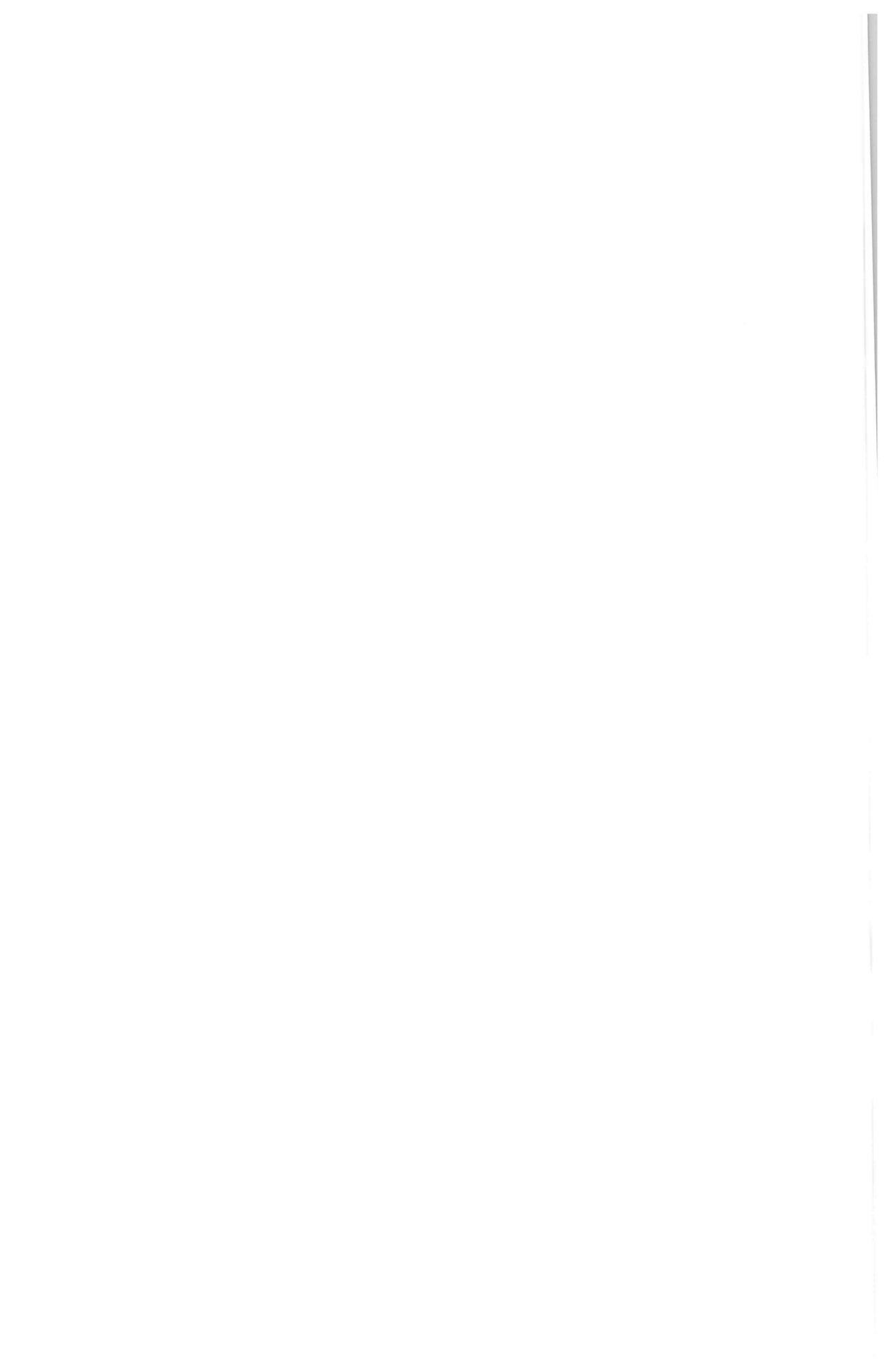
昭和56年3月

岩手県教育委員会  
日本道路公団

# 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

— VIII —

(大瀬川A～C遺跡)



岩手県文化財調査報告書第57集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅷ 正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
例言	6、7	審議	審議会	229	第19表	(4)(3号堀)	1 捜入
	30	大和原	大和泉			(5)(3号堀)1	削除
序文2	4	墳墓	墳墓		14	Cg18	Cb18
1	5	山地丘陵地	山地・丘陵地	230	8	(20)	(30)
9	11	傾むく。	傾く。		20	高台高	器高
15	1	の遺物	の遺構と遺物	232	第20表	(28)り、目立。	に、目立つ。
	3	10~12	6、10~12			(30)二の部	二の郭
	16	西側は	西側ピットは	234	第21表	(13)灰台色	灰白色
	17	東は	東側ピットは	235		(50)多い。	強い。
	23	柔かく	柔らかに			(60)Fd121	Fb121
18	7	1-8・9	3-8・9	236、237	15、16	44、50	43、51
21	15	この付着	この付近	242	第23表	(95)0t'0	削除
	25	北向き	北西向き			(97)(器厚)	0.40捜入
22	第12図	148、770	148.770	245	第26表	(8)底、高台	底部、高台内
23	5	148・92	148.92	246		(24)良い。	広い。
	27	遺構の確認)	(遺構の確認)			(49)薬釉	薬溜
27	第15図	9	5の外側	248	第27表	(5)引き	挽き
29、97	25、29	炭火物	炭化物		10	上ち	立ち
35	図版3	処理	処理	258	第32表	(9~12)融着し歪み	融着して歪み、
45	7	権木	権木	264	第124図	19	16
	16	Ic59焼地	Ic59焼土	265	第34表	(18)	実測図○捜入
	25	南壁さ	南壁は		17	33	36
46	第1図	細い	細かい	270	第37表	石磁器	陶磁器
49	4、25	一	一	271	第128図	I期、II期	II期、I期
	28	箇所	箇所	274	第39表	(一の郭)(26)(27)	(26)(27)(5)(23)
52	第5図	いぶい	にぶい			(5)(23)(17)	(24)(17)
53	8	剥面	剥離面	275	第40表	換算尺値中の、	すべて、
	最下行	いる。	いる。(加工痕なし)	280	第129図	(30.00)	(30.50)
58	2	地区	遺跡	282	第131図	(上)(4.26)	(8.00)
71	第1図	(縮尺)	1:50,000	287	第46表	(8)砥、石	砥石
76	15	15m	15km			(12)堀り込み	掘り込み
77	7	斯波云。	斯波上云。	288	11	堀立柱	掘立柱
79	24	169	169の		13	(13)の3	(11)、(13)の4
	25	一の郭	二の郭		26	遺構と	遺構を
81	第3図	(南)43	73	290	12、14	注(2)、(4)	書名「」
		(北)125-28	125-38	291	表	(7)(つなぎ皿)	(つなぎ皿)
99	第8図	(F-F')	上層に1捜入	295	24	舶載磁	舶載磁器
		(D-D')	2捜入	296	18	内ぞりと	内ぞり
		(左下)1a	削除		32、33、35	注(1)、(2)、(5)	書名「」
105	第9図	(C-C')	6. 暗褐色土 黒色	297	表	(5)104、(7)発堀	102、発掘
			が強く粘性がある	298	最下行	未調査	未調査
185	27、29	小片、(16)	小片で、青花(16)	304	21	土層中	上位層中
187	最下行	挟り	挟り	306	17	草木	草本
188	21	Da115-III	Da115-II	309	最下行	27の1、2、3	図版52 27の1、3、6
	第72図	(+)	Da118	312	12	IV	VI
206	6	5-8-9	5-8-10		20	2.16	2.19
211	2	これには	これに	313	R-5	(小計)47.30	47.90
222	15	南端より	南端よりの		図版42	(最下段)	4. 磁器
224、237、247	25、19、8	引き	挽き		第4図	(29)(上)170	削除



# 序

地域開発に伴う道路など交通網の整備事業は、社会の進歩発展からくる現代の必然的な要請であり、本県においても、そのための建設事業が多く計画・実施されております。しかしながら、私達には、祖先が長い歴史の中で創造し、伝えてきた貴重な文化遺産を保護するとともに新たな文化創造の糧として活用していく責務があります。

国土開発計画に基づいて、県内を南北に縦貫してつくられる東北自動車道は、産業経済開発の大動脈として多方面からの期待をになう国家的な大事業であり、一関・西根インター間が、すでに供用され、現在は、更に秋田・青森県境へと工事が進められております。

岩手県教育委員会は、この供用区間に関係した99遺跡について、日本道路公団仙台建設局の委託によって、昭和47年から昭和53年までの7年間にわたって発掘調査を実施し、その整理と報告書の作成を、昭和53年度から4か年計画で実施しております。

本報告書は、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書の第VIII分冊目として、石鳥谷町に所在する「大瀬川A・B・C」の3遺跡について、調査結果をとりまとめたものであります。

特に、大瀬川C遺跡は複郭によって構成された典型的な平山城であることが確認され、中枢部の全容とその変遷過程が明らかにされるとともに、築営年代も出土遺物等の検討から16世紀中葉にかかるものであることが判明するなど、多くの成果を提示いたしております。

この報告書が、記録保存の成果として社会教育や学術研究の場に役立つことを切に願いたします。

ここに、調査について御援助、御協力をいただいた地元教育委員会はじめ関係各位に対し心から感謝申し上げます。

昭和56年3月

岩手県教育委員会

教育長 新 里 盈

## 例 言

1. 本書は東北縦貫自動車道関係遺跡発掘調査報告書第Ⅷ分冊として、岩手県稗貫郡石鳥谷町大瀬川第8地割185-5ほかに所在する大瀬川A・B・C遺跡について作成したものである。
2. 調査及び資料について、次の方々からご指導、ご助言を賜った。(敬称略)

板橋 源 (岩手大学名誉教授)                      草間俊一 (岩手大学教授)  
 佐藤 巧 (東北大学教授)                      司東真雄 (岩手県文化財保護審議委員)  
 田中喜多美 (岩手県文化財保護審議委員)      林 謙作 (北海道大学助教授)

3. 資料の鑑定・分析・保存処理について、次の方々からご指導、ご協力を賜わった。(敬称略)

上野 猛 (岩手県埋文センター主任専門調査員)      奥田直栄 (根津美術館顧問)  
 粉川昭平 (大阪市立大学教授)                      佐藤二郎 (岩手県立大船渡農業高校教諭)  
 佐藤敏也 (国分寺市文化財審議会委員)              檜崎彰一 (名古屋大学教授)  
 長谷部楽爾 (東京国立博物館東洋課課長)              早坂松次郎 (岩手県木炭協会製炭経営指導員)  
 本堂寿一 (北上市立博物館学芸員)                      増沢文武 (元興寺文化財研究所研究室長)  
 三上次男 (東京大学名誉教授)                      村山斌夫 (東北歴史資料館保存科学科長)  
 矢部良明 (東京国立博物館工芸課陶磁室)              季 輝丙 (中国故宫博物院)  
 岩手県工業試験場                                      日本アイソトープ協会

尚、上野猛、粉川昭平、佐藤敏也三氏については特に原稿を依頼してご執筆いただいた。

4. 本書に掲載する地形図及び航空写真は、建設省国土地理院の承認を得て複製使用し、遺跡地形図及び遺構全体図は第十系座標による。土質柱状図は日本道路公団作成による。
5. 調査は日本道路公団の委託をうけ、県教育委員会が主体となり、次の通り実施した。調査にあたっては、石鳥谷町教育委員会をはじめ、地元の方々の多大なご協力をいただいた。

遺跡名(略号)	調査期間 (自～至)	対象面積	調査面積	発掘調査者
大瀬川 A (OSGA73・74)	昭和48.11.2～49.1.26	8,750㎡	460㎡	山口興典、林 謙作、齊藤 淳、高村嘉夫 四井謙吉、鈴木隆英、中川重紀、小野寺信孝
	昭和50.3.10～50.3.22			三上 昭、瀬川司男、昆野 靖、長谷川賢
大瀬川 B (OSGB73)	昭和48.11.2～49.1.26		2,160㎡	山口興典、林 謙作、齊藤 淳、高村嘉夫 四井謙吉、鈴木隆英、中川重紀、小野寺信孝
大瀬川 C (OSC74)	昭和49.6.5～49.11.9	24,000㎡	23,000㎡	瀬川司男、勝股国夫、島 隆 昆野 靖、相原康二、畠山喜一、三浦謙一 長谷川賢、小野寺たみゑ、大和原芳子

6. 本書の執筆は、序文を吉田努、相原康二、地区概観を相原康二、大瀬川A、B遺跡を三上昭、大瀬川C遺跡を昆野靖が分担し、挿図については小林史子、小林三千江、藤原周子の協力を得て作成した。全体の編集と写真図版のうち遺物撮影は分析・鑑定遺物を除いて三上昭が担当した。

# 目 次

## 序 文

- 1 経 過
- 2 調査の方法について
- 3 整理について

## 本 文

### 石鳥谷・花巻地区概観

- 1 地形概観 ..... 1
- 2 遺跡の分布 ..... 4

### 大瀬川A遺跡

- 1 概要 ..... 9
- 2 基本層序 ..... 9
- 3 発見された遺構と遺物 ..... 11
  - 1 縄文時代の遺構と遺物 ..... 11
  - 2 弥生時代の遺構と遺物 ..... 15
  - 3 平安時代の遺構と遺物 ..... 15
- 4 まとめ ..... 29

### 大瀬川B遺跡

- 1 概要 ..... 45
- 2 発見された遺構と遺物 ..... 45
  - 1 焼土遺構 ..... 45
  - 2 マウンド ..... 49
- 3 まとめ ..... 58

### 大瀬川C遺跡

#### 第1章 遺跡の立地と環境

- 1 位置と立地 ..... 73
- 2 周辺の城館と大瀬川館 ..... 75

#### 第2章 遺跡の現状と調査

- 1 地籍と現状 ..... 79
- 2 調査と整理 ..... 84

#### 第3章 空堀と土塁

- 1 1号堀と土塁 ..... 87

- 2 2号堀と土塁 ..... 87
- 3 3号堀と土塁 ..... 92
- 4 4号堀 ..... 97
- 5 5号堀 ..... 98
- 6 6号堀 ..... 101
- 7 7号堀と土塁、土橋 ..... 102
- 8 8号堀と土塁、溝 ..... 103

#### 第4章 一の郭の遺構

- 1 郭の形成 ..... 108
- 2 門と周辺の遺構 ..... 109
- 3 溝 ..... 113
- 4 柱穴群と掘立柱建物 ..... 116
- 5 竪穴遺構 ..... 176
- 6 焼土遺構 ..... 184
- 7 井戸と土壇 ..... 185
- 8 砂溜遺構 ..... 188
- 9 溝状土壇 ..... 188

#### 第5章 二の郭の遺構

- 1 郭の形成 ..... 190
- 2 溝 ..... 191
- 3 柱穴群と掘立柱建物 ..... 192
- 4 竪穴遺構 ..... 203
- 5 焼土遺構 ..... 206



6	井戸と土壌	207
7	砂溜遺構	208
<b>第6章 三の郭の遺構</b>		
1	郭の形成	209
2	門と週辺の遺構	209
3	溝	212
4	柱穴群と掘立柱建物	212
5	竪穴遺構	221
6	焼土遺物	225
7	溝状土塋	226
<b>第7章 遺物</b>		
1	陶磁器と土器	229
2	金属製品	252
3	石製品と石器	258
4	動物遺体	265

5	植物遺体	265
<b>第8章 まとめ</b>		
1	墓塚と郭	269
2	郭の遺構	271
3	遺物	293
4	むすび	298
<b>付 章 遺物の分析と鑑定</b>		
1	陶磁器の胎土分析	299
2	大瀬川C遺跡出土の獣歯骨	302
3	大瀬川C遺跡と柳田館遺跡出土の植物遺体	305
4	大瀬川C遺跡出土の米粒 大瀬川C遺跡出土焼米計測表	309 313
5	年代測定	321
岩手県教育委員会事務局文化課職員一覧		

### 挿 図 目 次 (大瀬川C遺跡)

第1図	石鳥谷町の城館遺跡	71	第21図	Ba30—II建物	143
第2図	地形及び地質推定断面図	74	第22図	Bc33—I建物	144
第3図	大瀬川館と周辺の地籍図	81	第23図	Bc33—II建物	145
第4図	大瀬川C遺跡グリット配置図	85	第24図	Bc27建物	145
第5図	1・2号堀	89	第25図	Bd30建物	146
第6図	2・3号堀	93	第26図	Bd15—I建物	147
第7図	2・6号堀	95	第27図	Bd15—II建物	149
第8図	4・5号堀	99	第28図	Bd15—III建物	151
第9図	7・8号堀	105	第29図	Bd15—IV建物	152
第10図	Da24門遺構	110	第30図	Bd12建物	153
第11図	Dj121—I・II門遺構	111	第31図	Be15建物	154
第12図	一の郭の溝	114	第32図	Bf18建物	156
第13図	一の郭柱穴断面図	116	第33図	Bf9建物	157
第14図	Ah30建物	138	第34図	Bg30建物	157
第15図	Ai33—I建物	138	第35図	Bg24建物	158
第16図	Ai33—II建物	139	第36図	Bg6・Bj12建物	160
第17図	Aj21—I建物	139	第37図	Bh9建物	161
第18図	Aj21—II建物	140	第38図	Bi12建物	162
第19図	Ba36建物	141	第39図	Bj103建物	163
第20図	Ba30—I建物	142	第40図	Ca24建物	164

第41図	Ca103 建物	164	第77図	Ef124 建物	199
第42図	Ce106・Cf103 建物	165	第78図	Ej136 建物	200
第43図	Cg6 建物	166	第79図	Fb136 建物	201
第44図	Cg112 建物	167	第80図	Ed112 竪穴遺構	204
第45図	Ch6 建物	168	第81図	Fb121 竪穴遺構	205
第46図	Ch115 建物	169	第82図	Gb21 井戸	208
第47図	Ci6 建物	169	第83図	Hc109 門及び周辺の遺構	210
第48図	Ci115 建物	170	第84図	三の郭柱穴断面図	212
第49図	Cj3 建物	171	第85図	三の郭掘立柱建物・ 柱列全体図	215
第50図	Cj109 建物	171	第86図	Hc133—I 建物	218
第51図	Da100 建物	172	第87図	Hc133—II 建物	219
第52図	Da103 建物	173	第88図	Hc133—III 建物	220
第53図	Db115 建物	173	第89図	Hc133—IV 建物	221
第54図	Dc103 建物	174	第90図	Gg118 竪穴状遺構	222
第55図	De106 建物	174	第91図	Gh127 竪穴遺構	223
第56図	Dg109 建物	175	第92図	Id106 竪穴遺構と遺物	224
第57図	Dh112 建物	176	第93図	三の郭焼土遺構	225
第58図	Ca100・Ca103—I・II 竪穴状遺構	177	第94図	Hd127・Hh133 焼土遺構	225
第59図	Ce103 竪穴遺構	179	第95図	三の郭溝状土塿断面図	226
第60図	De6 竪穴遺構	180	第96図	三の郭溝状土塿配置図	227
第61図	Dh106・Dh109 竪穴遺構	181	第97図	青磁出土分布図	230
第62図	Dj112 竪穴遺構	183	第98図	青磁	231
第63図	Cj3 焼土遺構	184	第99図	白磁出土分布図	232
第64図	De124 焼土遺構	184	第100図	白磁	233
第65図	Bj24 井戸	185	第101図	青花・赤絵出土分布図	236
第66図	Cb18 井戸	186	第102図	青花(1)	238
第67図	Cf9 用水溜	186	第103図	青花(2)	239
第68図	Cd109 土塿	187	第104図	赤絵	243
第69図	Db18 土塿	187	第105図	灰釉・鉄釉陶器出土分布図	243
第70図	Ea127 土塿	188	第106図	灰釉陶器	244
第71図	Da3 砂溜遺構	188	第107図	鉄釉陶器	247
第72図	一の郭溝状土塿	188	第108図	その他の施釉陶器	248
第73図	二の郭東辺断面図	190	第109図	陶器	248
第74図	二の郭柱穴断面図	192	第110図	その他の磁器	249
第75図	二の郭掘立柱建物・柱列及び 竪穴遺構全体図	197	第111図	土師質土器・須恵器 出土分布図	250
第76図	Ed127—II 建物	199	第112図	土師質土器	250

第113図	土器と石器出土分布図	251	第124図	石器	264
第114図	縄文・弥生土器拓影	252	第125図	柱根、木材、種子等 出土分布図	266
第115図	鉄・銅製品出土分布図	252	第126図	柱根等木材	267
第116図	鉄製品(1)	254	第127図	炭化穀類出土分布図	268
第117図	鉄製品(2)	255	第128図	墓塚変遷推定図	271
第118図	銅製品	256	第129図	Bd15—I建物推定模式図	280
第119図	古銭拓影	257	第130図	Be15建物推定模式図	281
第120図	石製品出土分布図	259	第131図	Bg6・Bj12建物推定模式図	282
第121図	石製品(1)砥石	260	第132図	船載磁器出土分布図	293
第122図	石製品(2)石臼	262	第133図	陶器・土師質土器出土分布図	293
第123図	石製品(3)手洗鉢、その他	263			

付 図(大瀬川C遺跡)

第1図	大瀬川C遺跡地形図	第4図	一の郭掘立柱建物・柱列全体図
第2図	大瀬川C遺跡遺構全体図	第5図	二の郭遺構全体図
第3図	一の郭遺構全体図	第6図	三の郭遺構全体図

表 目 次 (大瀬川C遺跡)

第1表	石鳥谷町の城館遺跡	75	第17表	三の郭焼土遺構計測表	225
第2表	Da24 門遺構柱穴計測表	109	第18表	三の郭溝状土壇計測表	226
第3表	Dj121 門及び周辺ピット計測表	112	第19表	出土遺物一覧表	229
第4表	一の郭柱穴計測表	117	第20表	青磁一覧表	231
第5表	Ce103 竪穴遺構柱穴計測表	179	第21表	白磁一覧表	234
第6表	De6 竪穴遺構柱穴計測表	180	第22表	青花出土表	237
第7表	Dh106・Dh109 竪穴遺構 柱穴計測表	181	第23表	青花一覧表	240
第8表	Dj112 竪穴遺構柱穴計測表	183	第24表	赤絵一覧表	243
第9表	二の郭柱穴計測表	192	第25表	灰釉陶器出土表	243
第10表	二の郭柱列一覧表	202	第26表	灰釉陶器一覧表	245
第11表	Ed112 竪穴遺構柱穴計測表	203	第27表	鉄釉陶器一覧表	248
第12表	Fb121 竪穴遺構内柱穴計測表	205	第28表	その他の陶磁器一覧表	249
第13表	Hc109 門及び周辺の 柱穴計測表	211	第29表	土師質土器・須恵器・ 土師器一覧表	250
第14表	三の郭柱穴計測表	213	第30表	鉄製品一覧表	255
第15表	Gg118 竪穴状遺構内 柱穴計測表	222	第31表	銅製品一覧表	257
第16表	Gh127 竪穴遺構内柱穴計測表	223	第32表	古銭一覧表	258
			第33表	石製品一覧表	261
			第34表	石器一覧表	265

第35表	柱根・木材・種子等一覧表	266
第36表	炭化穀類一覧表	268
第37表	空堀計測表	270
第38表	門遺構一覧表	272
第39表	建物別梁行、桁行比率一覧表	274
第40表	掘立柱建物計測一覧表	275
第41表	棟方向別建物一覧表	277

第42表	建物別柱間寸法一覧表	279
第43表	Bd15—I 建物柱間一覧表	280
第44表	Be15 建物柱間一覧表	281
第45表	Bg6・Bj12 建物柱間一覧表	282
第46表	竪穴遺構一覧表	287
第47表	用途別遺物一覧表	294

## 写真図版

大瀬川A遺跡	31
大瀬川B遺跡	59
大瀬川C遺跡	323
遺跡の遠景(1)	図版 1
遺跡の遠景(2)	図版 2
遺跡の全景(1)調査の前後	図版 3
遺跡の全景(2)一～三の郭	図版 4
塁壕(1) 1・2号堀	図版 5
塁壕(2) 2号堀	図版 6
塁壕(3) 2・5号堀	図版 7
塁壕(4) 2号堀	図版 8
塁壕(5) 2号堀土塁	図版 9
塁壕(6) 2・3号堀	図版10
塁壕(7) 3号堀	図版11
塁壕(8) 4号堀	図版12
塁壕(9) 4・5号堀	図版13
塁壕(10) 5号堀	図版14
塁壕(11) 2・6・7号堀	図版15
塁壕(12) 6号堀	図版16
塁壕(13) 7・8号堀	図版17
一の郭の遺構(1)門遺構(1)	図版18
一の郭の遺構(2)門遺構(2)	図版19
一の郭の遺構(3)遺構の全景(1)	図版20
一の郭の遺構(4)遺構の全景(2)	図版21
一の郭の遺構(5)竪穴遺構(1)	図版22
一の郭の遺構(6)竪穴遺構(2)	図版23
一の郭の遺構(7)焼土遺構	図版24
一の郭の遺構(8)土壌	図版25

二の郭の遺構(1)遺構の全景	図版26
二の郭の遺構(2)溝、竪穴遺構	図版27
二の郭の遺構(3)竪穴遺構	図版28
二の郭の遺構(4)井戸	図版29
三の郭の遺構(1)土橋と門遺構	図版30
三の郭の遺構(2)竪穴遺構	図版31
三の郭の遺構(3)竪穴遺構・ 焼土遺構	図版32
三の郭の遺構(4)溝状土壌	図版33
遺物の出土状況(1)陶磁器ほか	図版34
遺物の出土状況(2)石製品、柱根	図版35
出土遺物(1)青磁	図版36
出土遺物(2)白磁	図版37
出土遺物(3)青花(1)	図版38
出土遺物(4)青花(2)	図版39
出土遺物(5)赤絵	図版40
出土遺物(6)灰釉・鉄釉陶器	図版41
出土遺物(7)土師質土器ほか	図版42
出土遺物(8)鉄・銅製品	図版43
出土遺物(9)古銭、砥石	図版44
出土遺物(10)石臼、その他石製品	図版45
出土遺物(11)柱根、その他の木材	図版46
出土遺物(12)土器と石器	図版47
分析・鑑定遺物(1)獣歯骨	図版48
分析・鑑定遺物(2)植物遺体	図版49
分析・鑑定遺物(3)米、麦	図版50
分析・鑑定遺物(4)米	図版51
分析・鑑定遺物(5)米、麦	図版52

# 序 文

## 1 経 過

県内の東北縦貫自動車道建設は、昭和40年11月仙台・盛岡間の基本計画の決定に始まり、昭和43年4月の施行命令によって具体化される。

これによって破壊される埋蔵文化財の取扱いについては、文化庁と日本道路公団の覚書により、岩手県教育委員会がおこなうことになった。

まず、一関・盛岡間の路線予定地内の分布調査が、昭和42年及び43年に実施され、昭和45年2月19日水沢・花巻間40km、同年11月25日一関・胆沢間30km、46年2月10日石鳥谷・盛岡間29kmの路線発表がなされたことに伴ない、昭和47年8月～9月に、用地巾50mで現地確認調査、同年10月インターチェンジ及び付帯施設予定地内の現地確認調査等が順次実施され、一関・盛岡間の調査対象遺跡は当初82ヶ所確認された。

これらの破壊される遺跡について、できるだけくわしく調査記録し、遺跡のもつ歴史的価値を永く後世に伝えることを目的とし、昭和47年度に北上市・花巻市・金ヶ崎町所在の遺跡から調査が開始され、用地買収、着工順位に従って順次にすすめられた。

この間、調査除外としたもの4ヶ所がある。一関市苅又遺跡は過去の開田による破壊の程度が大きく煙滅、一関市松の木遺跡は宅地化による破壊、衣川村柵形陣場跡は所在位置が路線からはずれる。衣川村二枚貝化石層は遺跡としての調査対象としないことなどの理由による。

また、路線変更によって保存されたのが、平泉町伝護摩堂跡である。この遺跡は奥州平泉文化との関連が考えられ、路線発表後に路線内に所在することが確認され、急遽日本道路公団と協議し、路線を西側に変更した。一方、工事直前もしくは工事中に新しく確認されたものに、土取場の和賀町梅ノ木Ⅰ～Ⅶ遺跡、路線内では江釣子村下谷地B遺跡・紫波町墳館遺跡および柳田館遺跡がある。

昭和49年6月20日、盛岡・安代間53kmの路線発表があり、この区間のうち、盛岡・西根（松川まで）間が調査対象の日程にくりこまれ、当初、8遺跡が確認されたが、工事中に滝沢村卯遠坂遺跡が発見追加され、更に紫波インターチェンジの誘致新設に関連し、栗田Ⅰ～Ⅲ遺跡が調査対象となる。

以上のように、一関・西根（松川まで）区間の調査対象遺跡数は、除外、新規発見などによる変動を見て来た。このことは、埋蔵文化財保護の基本の一つとして、分布調査の重要性が改めて問われる一面でもある。結局、調査遺跡数は、99遺跡、18市町村におよぶものとなった。

調査をすすめる一方、文化庁、日本道路公団との協議によって、前述の伝護摩堂跡を完全保

存したのをはじめ、江釣子村鳩岡崎遺跡の縄文中期の大型穴住居跡の一部分、水沢市石田遺跡では、奈良時代から平安時代初期に相当する焼失家屋1棟、紫波町上平沢新田遺跡では、平安時代相当の焼失家屋1棟の路線境検出遺構を一部精査の上、それぞれ埋めもどし現地保存をした。

また、江釣子村猫谷地遺跡の古墳1基、紫波町墳館遺跡の墳基1基、柳田館遺跡・盛岡市太田方八丁遺跡の一部は、施工方法や設計変更等によって可能な限りの保存策をとった。

しかし、これらの保存遺構や遺跡の管理、活用は今後十分に留意しなければならないものであり、それがなされなければ完全な保存策であったとは言い得ない。

昭和47年度に始まった調査は、昭和53年度の紫波町栗田Ⅲ遺跡を最後に終り、現在、整理作業をすすめているが、東北縦貫自動車道建設の具体化以来、事業をすすめるに当たって、終始指導と助言をくださった県内外の協力者、および献身的な協力を得た関係市町村教育委員会、学校、関係諸機関、地元作業員の方々をはじめ各位に改めて敬意を表したい。

なお、西根町以北の東北縦貫自動車道関連遺跡は、(財)岩手県埋蔵文化財センターによって調査されることになり、昭和53年度から実施されている。

## 2 調査の方法について

(1) 調査対象範囲の選定 遺跡の中で用地内および付帯施設を含む関連部分は、すべて調査対象とした。更に、当該遺跡周辺の分布調査を可能な限り実施することにつとめ、調査地とそれをとりまく遺跡群との関連解釈の一助に資することとした。

(2) 調査対象全域に次のような地区を設定

①地区設定のための原点は、日本道路公団測量の路線内中心杭の任意のものに定め、それと他の中心杭の2点間を見通す直線と、原点を通りこれに直交する直線を座標の基準線とした。

②南北の基準線をもとに、30mを1ブロックとし、北から順にA・B……の記号を付し、これを東西、南北に10等分し3m×3mのグリットを設定、グリット名は北から順にa-j、南北基準線から東方へ50・53・56……。西方へ03・06・09……。の記号を付し、これとブロック記号の組合せで表わした。例えば、Aa03・Aa50 のようになる。

(3) 発掘および記録 発掘調査は絶対にくりかえしのできない作業であって、特に、緊急調査という性格と記録保存を考えると、調査の過程で観察された事項は可能な限り詳細に、しかもすべて客観的データーとして記録されねばならないし、記録者の解釈と観察された事実とが混同されぬよう留意しながら①遺構群をひとつのまとまりとして把握すること、文化層が重なっている場合、層序とともにそれぞれの文化層のひろがりを実に確実に把握すること、更に緊急調査の場合、事後の保存が困難である以上、トレンチによる部分発掘は回避すべきであることからグリッド設定にもとづく平面発掘につとめた。

②原則として3m×3mのグリットで、調査地における遺物・遺構の分布状況を把握するため、「ちどり」状に人力による粗掘をすることにしたが、結果的に機械力の導入も多かった。遺物・遺構の検出を見た場合、その具体的内容を究明するため必要な範囲の全面発掘を実施した。

③遺構が検出された場合、該当グリット名を付した。その場合もっとも北西に位置するグリット名で呼称することを原則とした。精査に当っては、2分法・4分法による平面発掘に留意し遺構の性格と内部堆積状況・構造・重複等を把握しながら完掘することとした。

④遺物は、原則としてグリットごとに取り上げ、遺跡記号・出土年月日・出土地点・出土層位を記録し、遺構に直接関連するものや、年代決定の資料となり得るものについては出土レベル、位置を平面図に記録し、遺物番号を付して取り上げた。

⑤遺物の出土状況・層位・遺構に関する所見等の記録は、実測図・遺構カード・フィールドノートを用い、全体の問題点、進行は調査日誌に記録した。

⑥写真調録は、35mm版モノクロ、カラー・6×7cm版モノクロを主として用いた。

(4) 実測方法 ①発掘された遺構の実測は、原則として遣り方実測を用い、平板実測は補助にとどめた。②原図の縮尺は1/20に統一したが、遺構・遺物の細部については、必要に応じて1/10縮尺を採用した。

(5) 関連科学との連けい 総合的な見地からの記録作業という意味で、考古学のみならず関連科学の研究者、とくに自然科学系統の分野との連けいに留意し、調査現場の実見と見解を求めることにつとめた。

### 3 整理について

整理にあたっては調査の性格（「緊急調査」と「記録保存」）を十分に考慮した。したがって可能な限り詳細な記録を作成することと、その公開を主目的とした。なおいわゆる「行政調査（とくに緊急調査）」と「学術調査」の異同を、その「現場」に投入された技術、方法の次元に還元して論ずるのは妥当ではない。「緊急調査」の「現場・調査」の位置づけについては、本課にも若干の反省点がある。

(1) いわゆる「珍品主義」・「一番主義」を排し、得た資料のすべてを観察し、それぞれに応じた記録を作成することを旨とした。各調査地（「遺跡」）・調査資料の正当な評価の資料を提示するためであるし、それが「記録保存」の趣旨にも連なるからである。その結果として記述が若干繁雑になった。ただし実際上は、調査担当者の設定仮説が整理担当者に十分伝わっていないなどのことも目立ち、満足のいく整理を必ずしもなしえなかった調査地もまた多い。遺憾である。また本書に提示した諸仮説、見解は本課の統一見解ではなく、整理担当のそれである。具体的には、①観察事項の正確な伝達 ②仮説の提示とその展開、吟味 ③新規の仮説、問題

点の提起 ④新しい資料操作法の提示などを目ざしたが、前述のように必ずしも十分には実施できなかった。

(2) 調査地はそれのみ単独での評価は避け、一定の地域内とりわけ他の「遺跡」との関係を重視して解釈・評価するように努めた。『周辺の遺跡』の項がやや繁雑にわたっているのはそのためである。これは(1)の実践をめざすのみならず、遺構存在を遺跡成立の絶対条件視する見解への反論のためにも必要であり、とりわけ埋蔵文化財保護にはきわめて重要な観点である。

(3) 調査時と同様に「関連諸科学・諸技術との連携」に留意した。(1)で述べた目的を満足させるために必要不可欠であり、さらにはその保存処理・各種データの蓄積・その公開も本課に課せられた責務だからである。今後の継続実施を考慮し、可能なものは努めて本県内の機関・公所・その他に連携ないし委託先を求めた。具体的実施例は、年代測定（カーボンディティング・熱ルミネッセンス法他）・材質鑑定（石材他）・樹種鑑定（木器・木材・柱脚他）・種子鑑定（炭化米・雑穀類・雑草類他）・花粉分析・人骨（歯）鑑定・獣骨（家畜を含む）鑑定・組成分析（釉薬・土器胎土・火山灰他）・燐分析・地質学的諸分析等にわたるが、今後も新分野を加える必要がある。保存処理は、木器・木材・柱脚類・鉄器類を中心に実施しているが、これも今後さらに新分野のものについて実施する必要がある。地質学的知見・教示は(2)などとの関連で、調査地および周辺の「遺跡」の立地・占地に関して、また遺物と出土層（とくに火山灰層）との関連に留意して援用した。大規模調査地については航空写真・ステレオカメラにもとづく作図を採用した。

(4) すべての対象（遺構・遺物・「遺跡」）について、技法的分析に加え組み合わせ重視の観点をも加えてある。

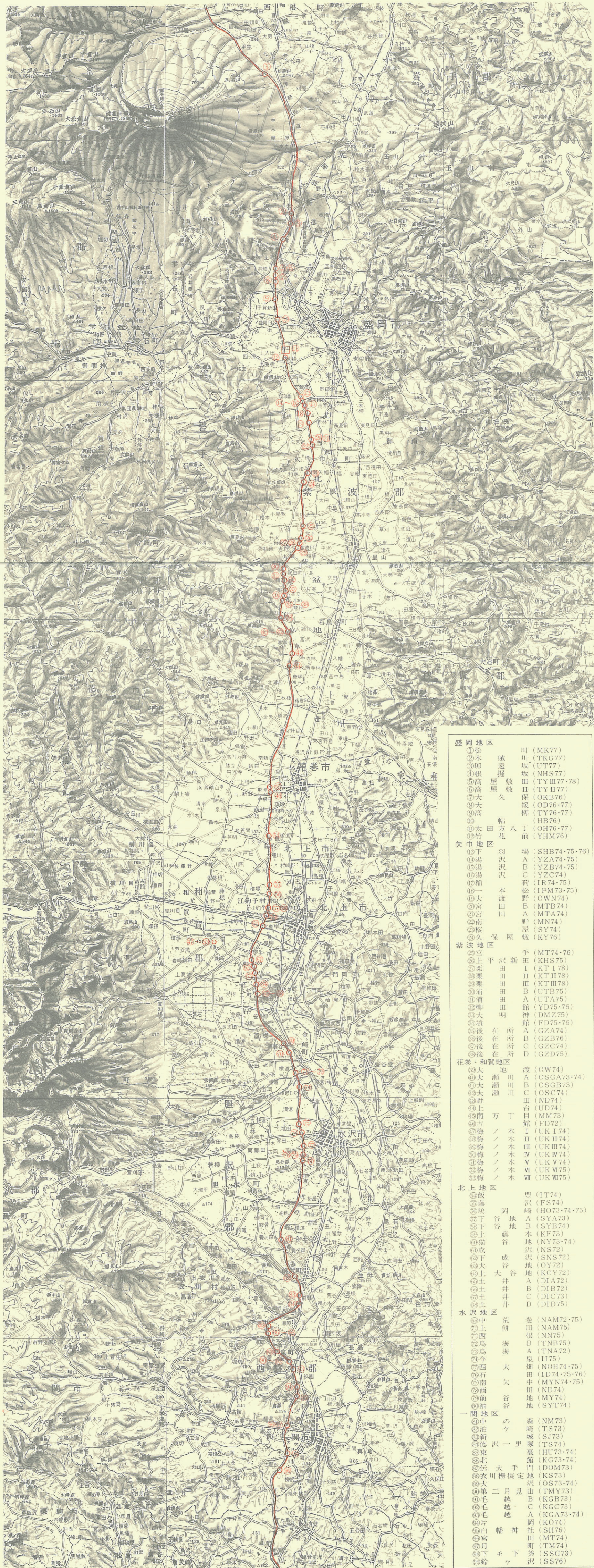
(5) 以上の技術的基準・指標として『出土遺物の整理について』（昭和47年作成のうち一部修正）を作成し大略それに準拠した整理を実施した。細部は省略するが、大枠は①観察事項を正確に伝えるための作図法他の技術的部門、②文章表現上の留意点とからなる。後者については観察事項と解釈の峻別・不明事項の不明の理由明示などがとくに求められている。

(6) 得た膨大な資料の公開は、別途計画のもとに実施されるであろう。



東北縦貫自動車道関係調査遺跡一覽

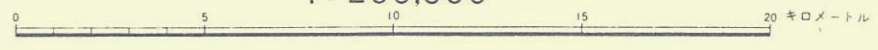
地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度	
盛岡	西根町 滝沢村	1	松川	52	和賀		51	梅ノ木 V	49	
		2	木賊川	52			52	梅ノ木 VI	50	
		3	卯遠坂	52			53	梅ノ木 VII	50	
		4	根掘坂	52		北上市	54	飯嶋岡	豊沢	49
		5	高屋敷 III	52・53			55	藤嶋岡	沢崎	49
		6	高屋敷 II	52			56	鳩岡	崎	48・49・50
	7	大大久保	51	57			下谷地	A	48	
	8	大大久保	51・52	58			下谷地	B	49	
	9	高高柳	51・52	59			上藤木	地	48	
	盛岡市	10	幅	51		60	猫谷	地	48・49	
		11	太田方八丁	51・52		61	成	沢	47	
		12	太竹花前	51		62	下成	沢	47	
矢巾		都南村	13	下羽場	49・50・51	水上	北上市	63	大谷地	47
			14	下湯沢 A	49・50			64	上大谷地	47
			15	湯沢 B	49・50			65	土井 A	47
	16		湯沢 C	49	66			土井 B	47	
	17		湯沢	49	67			土井 C	48	
	18		稲一本松	49・50	68			土井 D	50	
	矢巾町	19	一大宮野	49	金ヶ崎町		69	中荒	巻田	47・50
		20	大宮田 A	49			70	上餅	根	50
		21	宮田 B	49			71	西鳥海	B	50
		22	宮南野	49			72	鳥海	A	47
		23	南桜屋敷	49			73	鳥海	A	47
		24	久保屋敷	51			74	今泉	50	
紫波	紫波町	25	宮手	49・51	水沢市	75	西大畑	49・50		
		26	上平沢新田	50		76	石南矢中	49・50・51		
		27	栗田 I	53		77	南矢中	49・50		
		28	栗田 II	53		78	西前	49		
		29	栗田 III	53		79	前袖	49		
		30	浦田 B	50		80	袖谷地	49		
		31	浦田 A	50		胆沢町 前沢町	81	中の森	48	
		32	浦田館	50・51			82	泊ヶ崎	48	
	33	柳田明神	50	83	新徳		48			
	34	墳館	50・51	84	徳沢一里塚		49			
	35	後在所 A	49	85	東裏		48・49			
	36	後在所 B	51	86	北館		48・49			
	波	紫波町	37	後在所 C	49	87	伝大手門跡	48		
			38	後在所 D	50	88	衣川柵擬定地	48		
花巻・和賀			石鳥谷町	39	大地渡	49	平泉町	89	大沢	48・49
				40	大瀬川 A	48・49		90	第二月見山	48
				41	大瀬川 B	48		91	毛越 B	48
				42	大瀬川 C	49		92	毛越 C	48
	花巻市	43	大野田	48	93	毛越 A	48・49			
		44	上野台	49	94	片越岡	49			
		45	南万丁目	48	95	白幡神社	51			
		46	古館	47	96	宮田	49			
		47	梅ノ木 I	49	97	月下	49			
		48	梅ノ木 II	49	98	月下釜	48			
和賀町	49	梅ノ木 III	49	99	鈴ヶ沢	51				
	50	梅ノ木 IV	49							



- |         |                  |
|---------|------------------|
| 盛岡地区    | 川 (MK77)         |
| ①松      | 川 (TKG77)        |
| ②木      | 坂 (UT77)         |
| ③卯      | 坂 (NHS77)        |
| ④根      | Ⅲ (TY III 77-78) |
| ⑤高      | Ⅱ (TY II 77)     |
| ⑥高      | 保 (OKB76)        |
| ⑦大      | 緩 (OD76-77)      |
| ⑧大      | 柳 (TY76-77)      |
| ⑨高      | (HB76)           |
| ⑩大      | 八丁 (OH76-77)     |
| ⑪大      | 前 (YHM76)        |
| 矢巾地区    | 場 (SHB74-75-76)  |
| ⑬下      | A (YZA74-75)     |
| ⑭湯      | B (YZB74-75)     |
| ⑮湯      | C (YZC74)        |
| ⑯桶      | 荷 (IR74-75)      |
| ⑰一      | 本 (IPM73-75)     |
| ⑱大      | 野 (OWN74)        |
| ⑳宮      | B (MTB74)        |
| ㉑宮      | A (MTA74)        |
| ㉒南      | 野 (MN74)         |
| ㉓桜      | 屋 (SY74)         |
| ㉔久      | 敷 (KY76)         |
| 紫波地区    | 手 (MT74-76)      |
| ㉕宮      | 新 (KHS75)        |
| ㉖上      | I (KT I 78)      |
| ㉗栗      | II (KT II 78)    |
| ㉘栗      | III (KT III 78)  |
| ㉙浦      | B (UTB75)        |
| ㉚浦      | A (UTA75)        |
| ㉛柳      | 館 (YD75-76)      |
| ㉜大      | 神 (DMZ75)        |
| ㉝墳      | 館 (FD75-76)      |
| ㉞後      | A (GZA74)        |
| ㉟後      | B (GZB76)        |
| ㊱後      | C (GZC74)        |
| ㊲後      | D (GZD75)        |
| 花巻・和賀地区 | 渡 (OW74)         |
| ㊳大      | A (OSGA73-74)    |
| ㊴大      | B (OSGB73)       |
| ㊵大      | C (OS74)         |
| ㊶野      | 田 (ND74)         |
| ㊷上      | 台 (UD74)         |
| ㊸南      | 目 (MM73)         |
| ㊹古      | 館 (FD72)         |
| ㊺梅      | I (UK I 74)      |
| ㊻梅      | II (UK II 74)    |
| ㊼梅      | III (UK III 74)  |
| ㊽梅      | IV (UK IV 74)    |
| ㊾梅      | V (UK V 74)      |
| ㊿梅      | VI (UK VI 75)    |
| 北上地区    | 豊 (IT74)         |
| ㊱飯      | 沢 (FS74)         |
| ㊲藤      | 崎 (HO73-74-75)   |
| ㊳鳩      | A (SYA73)        |
| ㊴下      | B (SYB74)        |
| ㊵上      | 木 (KF73)         |
| ㊶猫      | 地 (NY73-74)      |
| ㊷成      | 沢 (NS72)         |
| ㊸下      | 沢 (SNS72)        |
| ㊹大      | 地 (OY72)         |
| ㊺上      | 地 (KOY72)        |
| ㊻土      | A (DIA72)        |
| ㊼土      | B (DIB72)        |
| ㊽土      | C (DIC73)        |
| ㊾土      | D (DID75)        |
| 水沢地区    | 巻 (NAM72-75)     |
| ㊿中      | 田 (NAM75)        |
| ㊱上      | 根 (NN75)         |
| ㊲西      | B (TNB75)        |
| ㊳鳥      | A (TNA72)        |
| ㊴鳥      | 泉 (II75)         |
| ㊵今      | 畑 (NOH74-75)     |
| ㊶西      | 畑 (ID74-75-76)   |
| ㊷石      | 中 (MYN74-75)     |
| ㊸南      | 地 (ND74)         |
| ㊹西      | 地 (MY74)         |
| ㊺前      | 地 (SYT74)        |
| ㊻抽      | 地 (SYT74)        |
| 一関地区    | の (NM73)         |
| ㊼中      | 崎 (TS73)         |
| ㊽泊      | 城 (SJ73)         |
| ㊾新      | 塚 (TS74)         |
| ㊿徳      | (HU73-74)        |
| ㊱東      | 異 (KG73-74)      |
| ㊲北      | 館 (DOM73)        |
| ㊳衣      | 定 (KS73)         |
| ㊴大      | (OS73-74)        |
| ㊵二      | 山 (TMY73)        |
| ㊶月      | B (KGB73)        |
| ㊷毛      | C (KGC73)        |
| ㊸毛      | A (KGA73-74)     |
| ㊹片      | (KO74)           |
| ㊺白      | 社 (SH76)         |
| ㊻官      | 田 (MT74)         |
| ㊼下      | 町 (TM74)         |
| ㊽下      | 釜 (SSG73)        |
| ㊾鈴      | ヶ (SS76)         |

第3図 岩手県における東北縦貫自動車関係遺跡分布図

1:200,000



本 文



## 石鳥谷・花巻地区概観

### 1. 地形概観

本地域の中央部にも南北にのびる北上川河谷平野があり、同川はこの河岸低地（沖積低地）を蛇行しながら南流する。北上川の東・西岸ではその地形は様相を大きく異にする。

北上川河谷平野の東方は北上山地の西縁部（東部山地）にあたり、山地丘陵地が入り組んで発達している。山地は権現堂山(476m)を最高峰とし、標高300m前後、丘陵地は同じく300～150m前後である。この東部山地は古生層、花崗岩類、蛇紋岩類、安山岩、第三紀鮮新統の砂岩、頁岩からなる。台地は山地・丘陵地を開析して西流する北上川の支流猿ヶ石川・稗貫川などの諸河川に沿い、小規模な河岸段丘として分布する。上記の諸河川には沖積低地が発達し、河川勾配は比較的緩やかである。

北上川河谷平野西方は上記とは地形を大きく異にする。その西側には急峻で起伏の大きい第三系よりなる奥羽山脈（西部山地、高さ800m以上）がひかえる。さらに山地東縁の外方にも第三系に属する安山岩の露出があり、北谷地山・日詰の城山などのように段丘発達区内に残丘状に分離して散在する。この奥羽山脈東縁部は、基本的にはグリーン・タフで構成され、安山岩～流紋岩や砂岩、礫岩、頁岩からなる。この山地はその東縁部を主として南北方向の直線状急崖地形で境され、北上川右岸の段丘地形発達区に臨んでいる。この急崖は構造運動による断層線崖と思われる。山地は北西部に向かい、次第に高度を上げていく。

西部山地に発した豊沢川・瀬川・葛丸川等の諸河川は、急勾配で北上川に合流している。なお北上川右岸の丘陵発達はあまり顕著でなく、わずかに西部山地東縁の断層線崖下に扇状地性台地にはさまれ、幅0.5～2kmの南北に細長い形状で分布するにすぎない。

山地の東方の扇状地性台地には段丘群が顕著に発達するが、それらは古期から順に石鳥谷段丘・二枚橋段丘・花巻段丘・都南段丘と呼ばれている。本地域の主面は花巻段丘であり、西部山地東麓から東方へ展開し、その間により高位の段丘がとり残された形で分布する。

上位の石鳥谷段丘は西部山地東縁部山麓部や日詰付近から石鳥谷付近にかけて、北上川河谷低地に面した扇端部・段丘端部などに残丘的に分布する。調査区域付近においては志和稻荷神社付近から花巻温泉付近にかけて比較的顕著に発達している。これらは平坦面をやや残してはいるものの開析が進み、その傾斜は後述の花巻段丘より緩やかであり、丘陵地状化しているといえる。

中位の二枚橋段丘は日詰以南に発達し、石鳥谷までの間では石鳥谷段丘に伴って分布するが、それ以南では扇状地地形の扇央～扇端において、その周囲を低位の花巻段丘に囲まれた形で分布し、緩やかな起伏をもった開析扇状地面的な様相を示す。

下位の花巻段丘は上記二段丘より急傾斜する新鮮な面をもち、等高線の配置は複合扇状地状

地形区分

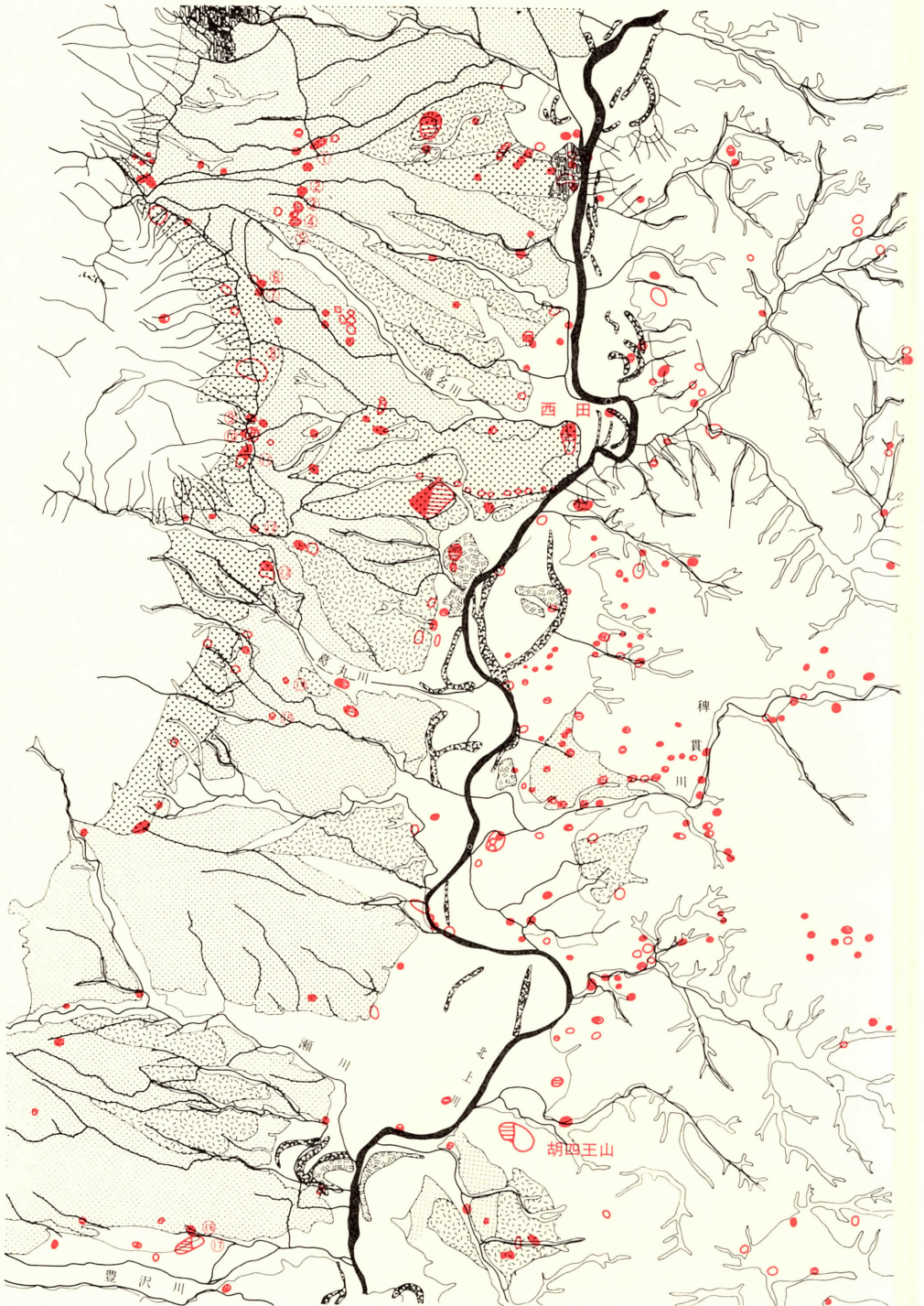
- 山地
- ▨ 石鳥谷段丘
- ▩ 花巻段丘
- ▧ 二枚橋段丘
- ▦ 旧河道

遺跡区分

- 縄文時代
- 弥生時代
- ⊗ 古墳時代
- 奈良時代
- ⊖ 平安時代
- 中・近世

縦貫道関連の遺跡名

- ① 宮手
- ② 上平沢新田
- ③ 栗田Ⅰ
- ④ 栗田Ⅱ
- ⑤ 栗田Ⅲ
- ⑥ 浦田A
- ⑦ 浦田B
- ⑧ 柳田館
- ⑨ 大明神
- ⑩ 墳館
- ⑪ 後在所  
A～D  
(以上紫波町)
- ⑫ 大地渡
- ⑬ 大瀬川  
A～C
- ⑭ 野田
- ⑮ 上台  
(以上石鳥谷町)
- ⑯ 南万丁目
- ⑰ 古館  
(以上花巻市)



地形区分と遺跡の分布

0 3 km

を呈す。既述のようにこの地域（特に葛丸川以南）に広範に発達している。北上川本支流沿いに分布し、とりわけ支流の奥地にまで入り込んでいる。Würm 氷期相当期の形成とも考えられている。なお西部山地麓部においては、これらを被覆する小規模かつ新規の扇状地形も形成されている。

以上のほか、北上川河谷平野の両岸に沖積段丘と思われるものが北上川本支流に沿って小面積ではあるが分布する。河川との比高は一般4.5m以下と小さい。明瞭な段丘崖は認められず、緩く傾斜して漸進的に河岸低地（沖積面）に移行するものが多い。

北上川本流に沿って幅1～4kmの谷底平野（河岸低地）が発達するが、ここには旧流路と思われる凹部、自然堤防や沖積段丘状の微高地、河川蛇行時の側刻によるとと思われる崖などが残存し、一様に低平ではない。北上川右岸の諸段丘群を開析する諸河川にも沖積低地が発達しているが、漸次小規模な沖積段丘化を行ないつつ形成されたらしく、段丘に向って緩く傾斜している。

本地域における主要な水系は北上川水系であり、諸河川として葛丸川、滝名川、五内川と、これらに注ぐ谷及び沢がある。これらの発達状態は全体的に彫琢期乃至満拡張期にあたる。

河系模様は全般的に樹枝状を呈するが、西部では羽毛状を、また北谷地山、城内山では放射状を呈す。

ちなみに本地域の表層地質を概述すると以下のとおりである。

地質時代		地層(岩層)名	岩石の種類	
新 世 代	第 四 紀	沖積世	現河床堆積物 崖錐堆積物 扇状地・段丘堆積物	砂礫泥(シルト、粘土) 碎屑物
			洪積世	新期火山類
		扇状地・段丘堆積物		砂礫泥・碎屑物
		志和層		凝灰質頁岩・凝灰質砂岩・亜炭
	新 第 三 紀	中 新 世	湯口層	石英安山岩・集塊岩・浮石・凝灰岩 凝灰質頁岩・凝灰質砂岩 凝灰岩
			男助層	石英粗面岩質凝灰岩 石英粗面岩質角礫凝灰岩
			幕館層	安山岩質集塊岩 角礫凝灰岩
	中 世 代	白 亜 期	深成岩類	花崗岩類 斑禰岩類 蛇紋岩類
	古 生 代	二 疊 期	北上山系北部型	粘板岩・頁岩 チャート
石 炭 期		南部型古生層	石灰岩 輝緑凝灰岩	

参考文献 中川他「北上川中流沿岸の第四系および地形 —北上川流域の第四紀地史(2)—」  
「地質学雑誌」第69巻 第812号 1963年  
「北上山系開発地域土地分類基本調査」日誌(5万分の1)国土調査 岩手県 1974年

## 2. 遺跡の分布

現段階で把握している限りでの遺跡分布を基礎に、その分布上の特徴を見る。ただし、花巻市地区については遺跡の把握が必ずしも充分ではなく正確は期しがたい。同市地区については早急な確認が求められる。

縄文時代の遺跡が河岸低地（沖積地）に立地することは極めて稀である。北上川西岸においては良好に発達している諸段丘群の縁辺・面を開析する沢（小河川）の周縁などに分布する。それらの中では紫波町西田遺跡（高位段丘の東端部）がもっとも著名である。時代内の時期による占地の移動の存否の点検は興味ある課題である。東岸においては同様に段丘の縁辺・丘陵性の山地に入り組んで発達する谷（沢）沿いの緩斜面に存在する例が多い。単純に遺跡数のみを比較すると左岸に遺跡が多く分布する。石鳥谷町高畑遺跡の如く、ある程度の規模を有する集落も存在するらしい。

弥生時代のそれについては資料不足のため確言は出来ないが、高位段丘上などの比較的高地に占地するものと、河岸低地をのぞむ低位段丘縁辺に対するそれとがあるらしい。両者の生業論的検討も必要であろう。

古墳時代・奈良時代についても資料不足であり、不明な点が多い。奈良時代の可能性の高いものは熊堂古墳群であるが、それは低位段丘の縁辺にのっている。胆沢扇状地におけるあり方と類似するとも見える。

平安時代の遺跡は大略縄文時代に重複するものが多いが、それに加えて河岸低地や、その上の自然堤防へも進出し始める点が新しい傾向と思われる。これも他地域に共通するところである。胡四王山遺跡や南隣の東和町所在の成島毘沙門天像の存在をひくまでもなく、平安時代のこの地域にも種々の政治的・経済的動きがあったと思われるが、現状では一切不明である。今後の資料の蓄積にまつしかない。

中・近世についても不明な点が多いが、近世の城館については、西方山地の麓部・高位段丘東縁部などと北上川河岸低地に臨む段丘縁辺に営なまれる点が目立つ。北上川東岸も同様であり、交通上の要地を占める。

以上のように本地域の遺跡立地の動きは、胆沢扇状地におけるよりもその変化が目立たない。今後の資料増加によりその補遺を追加し、その傾向性の把握に努めねばならない。



# おお せ がわ 大 瀬 川 A 遺 跡

遺 跡 名：大瀬川 A（略号OSGA73・74）

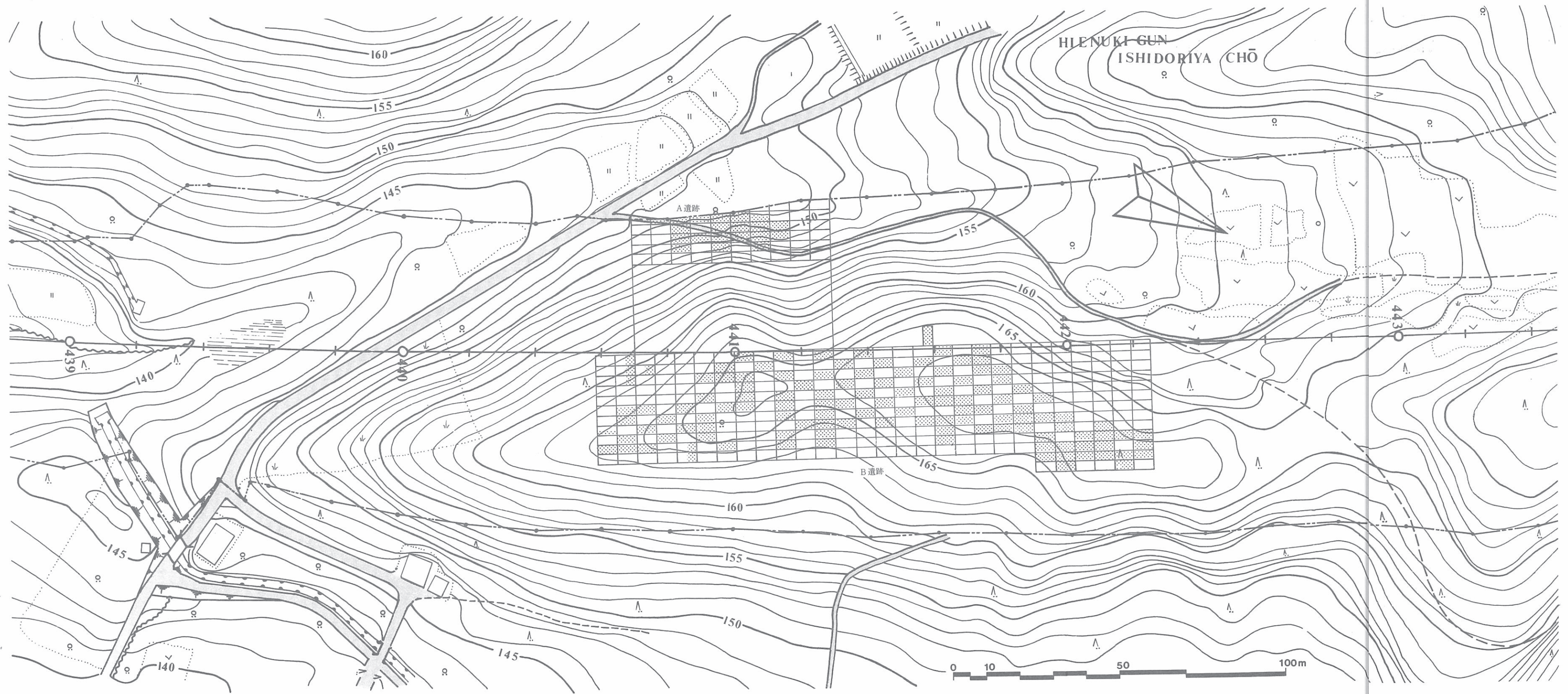
遺 跡 所 在 地：稗貫郡石鳥谷町大瀬川第 8 地割181の5ほか

調 査 期 間：昭和48年11月 2 日～昭和49年 1 月26日  
昭和50年 3 月10日～昭和50年 3 月22日

調査対象面積：8,750m<sup>2</sup>

発掘調査面積： 460m<sup>2</sup>





第1図 地形・グリッド配置図